

ないかと思っている。というのも本書が、観測的天文学者の考え方、アプローチの手段、方法をおそらくは、観測が非常に好きな人々（プロ、アマを問わず）相手に語るという気分で書かれているためである。（そして、その目的は成功しているように思われる。）

全く当り前のことなのだろうが、恒星の観測家は、星からの光をいかにとらえるかという努力と、何とかして変わり種を先がけて見つけたいという願望から成り立っているようである。本書の前半部では、星の色の観測のしかた、表わし方の努力の歴史がまとめられており、特に、天文観測に光電測光を持ち込むのに大きな貢献をした「ステビンズさん」の努力の跡がたんねんに記述されている。そのような延長上で、現在も CCD カメラなど威力ある技術開発が進んでいるが、それらについての日本の現状（あるいは欠けているもの）についての言及が欲しかった。老人の役割には、昔話を語ることと、「近頃の若い者は」と現状を批判することがあった筈で、これは天文学よりも古い時代からの真実であり、無い物ねだりではない。

本書の後半部では、Ap 星にまつわる観測、モデル、著者の仕事等がまとめられているが、時に、著者自身の Ap 星変種の発見のあたりは観測家の願望がよく表われている。理論屋は、ある現象に対し「なぜそうなのか」を「特殊・例外事象としてでなく、最も一般的に」説明したが、という性癖を持っており、そのオーソドックス性が Ap 星については成功していないようである。理由は不明だが、星の磁極のところには、稀土類元素が多い（又はそのように見える）大陸があり、磁気赤道にはクロムの多い大陸があるのだとする Ap 星の斑紋モデルは、磁化した星の脈動モデルに比べて一般性に欠けると理論屋には思えるのだが、どうも今のところ斑紋モデルの方が有利のようである。少しでも変わったものを見つけ出したいという観測家の願望は、オーソドックスにしか考えられぬ理論屋の鼻をあかしたいという願望の裏返しなのではあるまいかと筆者には思われる。従って、本書を理論屋にではなく観測を志望する人々におすすめる。

(池内 了)

『新編 天文用語事典』

執筆者/下保 茂
香西 洋樹
真鍋良之助

(誠文堂新光社, 昭和59年3月15日刊, 980円)

本書の初版が発行されたのは、昭和46年、今から13年前のことであった。『まえがき』で執筆者が指摘するように、その後天文学は、誠にめざましい発展をとげた

わけであるが、これには、素粒子論を中心とする物理学や、また、エレクトロニクスに代表される科学技術の発展が大きな役割を果たしてきた。それにつれて、科学の様々な分野で天文学が注目を浴び、一般向けの科学雑誌でも1年のうち何回かは、天文学関係の特集が載るようになった。こうした状況を背景に、天文学に関する辞・事典もこの10年間で10冊以上発行されている。

本書もそうした状況を踏まえて改訂・増補された訳である。初版(同じB6版)に比べ、ページ数で20ページ程ふえ、用語は全部で約460語となった。初版で項目別であった順序をアイウエオ順に直し、わからない用語に出会ったら、とにかく引けばわかる、という形になった。もともと『月刊天文ガイド』の記事に関する用語事典として生まれたことから、内容は、天文学に興味のある人々が少し専門的な事柄を理解できるようにしたものだといえる。具体的な特徴としては、まず、平易な言葉を選んで、一般向けの解説に努めている。ということである。次に、一番の特徴として観測機器についての用語が豊富だということ。かなりの高度な技術まで解説されている。また、細かい事になるが、呼び方の統一されていない用語については、括弧付きで並記されており、関連事項も矢印で後ろに示されているなど、親切な配慮がみられる。最後のページに各種座標や軌道要素・天文定数が図表になっており、これはかなり便利である。欲を言えば、もう少し本文中に説明のための図がほしい所ではあるが、『最小のスペースで簡易に表現する』という初版以来の方針に従うと仕方のないことかもしれない。

本書は大きさもB6版で持ち運びも便利であり、いつでもすぐ開いてみる事ができるが、より詳しく知りたい場合には、専門書などで調べることになるであろう。

(奥村幸子)

お知らせ

東京大学理学部物理学教室教官公募

1. 公募人員 助教授1名。
当教室の運営は講座制をとっておりません。この職は一研究室単位を主宰するものです。
2. 専門分野 宇宙物理(実験): 宇宙空間における物理現象の実験的研究。
3. 着任時期 決定後なるべく早い時期。
4. 提出書類 ○履歴書 ○研究歴 ○業績リスト ○主要論文別刷 ○自薦の場合は着任後の研究計画および本人について意見を述べる人(3名)の氏名・所属 ○他薦の場合は推薦書
5. 公募締切 1984年10月31日(水)必着。

6. 宛先・連絡先 〒113 東京都文京区本郷 7-3-1
 東京大学理学部物理学教室主任
 宮沢弘成
 電話 03-812-2111 内線 4133, 4221
 封筒に『応募書類在中』と朱書き書留で郵送してください。

京都大学理学部物理学第二教室教授公募

1. 公募人員 教授1名
2. 専門分野 基礎物理としての宇宙の研究(理論)
3. 着任時期 決定後出来るだけ早い時期
4. 提出書類

応募の場合: ○履歴書 ○研究歴(論文リスト, 主要論文別刷を含む) ○研究計画書
 ○着任可能時期

推薦の場合: ○推薦書 ○略歴書 ○研究歴(主要論文リスト, 出来ればその論文別刷を含む) ○着任可能時期

5. 公募締切 1984年11月17日(土) 必着
6. 宛先 〒606 京都市左京区北白川追分町
 京都大学理学部物理学第二教室主任
 町田茂
 (電話 075-751-2111 内線 3834)
7. その他 郵送の場合は書留とし, 封筒の表に「教授応募書類」と朱書すること。

天体観測雑誌

天文ガイド

●10月号 ●定価420円〒80

カナリア諸島の天文台

ビクセン10cm屈折天体望遠鏡

神戸青少年科学館のクック25cm屈折

テキサス・スターパーティー

●テレスコープエンジニアリング ●マイコン教室

10月にはいると、いよいよ待望のハレー彗星が日本でも、アマチュアの大型望遠鏡の射程にはってきます。だれが最初に写真をとるか、気になるところです。

誠文堂新光社

特集カメラボデー天文用データシート

●天体写真を撮るには、どんなボデーが必要か?
 ●35ミリ判から6×9まで約70種類の紹介

山に登って星を見る
 ●山には星のよく見える暗い場所がいっぱいあります。山で写した天体写真と撮影地ガイド。

STAR ISLAND
 ●星を見に島へゆく小笠原・サイパン・グアム

ガリレオ計画
 ●1986年、いよいよ大空を陸奥丸が打ち上げられます

ハレー計画進行中
 ●ハレー観測のために、どんな予定がたてられているのか

アストロカメラを作る / 吸引装置を作る / シュミットカメラの世界 / アウトフォーカス

好評発売中

STAR WATCHING

天文ガイド8月号臨増★定価580円

1984年6月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	4,	52	6	4,	11	11	—,	—	16	7,	80	21	—,	—	26	—,	—
2	3,	51	7	4,	20	12	4,	24	17	—,	—	22	—,	—	27	4,	29
3	—,	—	8	5,	18	13	—,	—	18	9,	47	23	—,	—	28	4,	23
4	3,	24	9	3,	12	14	3,	46	19	7,	57	24	—,	—	29	—,	—
5	2,	21	10	—,	—	15	6,	59	20	—,	—	25	—,	—	30	5,	22

(相対数月平均値: 57.9)

昭和59年8月20日	発行	人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷	所	〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町251	啓文堂 松本印刷
定価 450円	発行	所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
			電話 三鷹 31局 (0422-31) 1359	振替口座 東京 6-13595